

2019 年ラグビーW 杯で日本が ベスト 8 に入るためのマッチメイク

トップスポーツマネジメントコース

5010A316-9

新戸 明子

研究指導教員：平田 竹男 教授

1. 緒言

2009 年 7 月 28 日、悲願であった「2019 年ラグビーW 杯日本開催」が決定した。日本にラグビーが伝わり 111 年の歴史を迎えようとする中、この素晴らしいチャンスをようやく手にいれることができた。このラグビーW 杯日本開催決定で、日本ラグビー界は新たなステージへの一步を踏み出すことが出来る。しかし、今まではファウンデーション・ユニオン（IRB 創立 8 協会）のみで開催された大会が、初めてそれ以外の地域、国である日本で開催することから、大きな期待と同時に多くの課題があることも事実である。したがって、大会開催までには、幾多の困難を乗り越えていかなければならないが、誰もが夢見る大舞台をホスト国として担う「誇りと責任」を胸に、ラグビーで繋がるすべての人たちとラグビーW 杯日本大会を成功させたいと、筆者は強く思っている。

そのためには、ホスト国である日本代表チームの戦いぶりが重要である。開催国の健闘なくしては、大会は盛り上がらない。日本代表チームが世界の大舞台で勝利すれば、強化、普及、資金獲得のトリプルミッションの好循環が生まれる。だからこそ、日本代表が W 杯で決勝トーナメント（ベスト 8）に進出することが重要課題であり、その目標を達成しなければいけないと考える。

先行研究として、平田（2009）はマッチメイクの重要性を指摘しているが、その他にも武隈ら（1994）は、スポーツ組織の有効性の測定尺度（期待する成果を評価する

ための基準）を開発することを目的とし、招待試合や普及のイベントを実施することが組織の有効性の一因であることを明らかにした。また、マッチメイクに関する論文として、村木（1988）は、陸上競技を事例とし、効率的な試合日程及びトレーニング周期を検証した。このように、試合日程の組み方や、代表の強化のための施策を検証した研究は見られるものの、ラグビー競技の強化、普及、資金獲得を考慮したマッチメイクに関する研究はないことから、本研究を行う意義があると考えた。

2. 研究目的

本研究の目的は、2019 年 W 杯日本開催で、日本代表がベスト 8 に入るためのマッチメイクとは何かを明らかにし、日本ラグビー界の更なる発展に向けた提言を行うことである。

3. 研究方法

本研究では、2019 年 W 杯日本開催で、日本代表がベスト 8 に入るためのマッチメイクとは何かを明らかにするため、3 つの分析を行った。

(1) 2011 年ラグビーW 杯、及び、過去の W 杯における予選方法、抽選方法、大会ルール、試合戦績を分析した。

(2) 世界ランキングの推移を分析した。

(3) 諸外国、及び、日本の過去のマッチメイクを分析した。

これらの分析により、予測される予選プールの組み合わせを推測し、仮想敵国をターゲットングすることで、仮想敵国に勝利

するマッチメイクを見つけ出すことができると考えた。

4. 結果

(1)W 杯の大会フォーマットの分析結果から、予選方法、抽選方法、大会ルール、試合戦績が分かり、ベスト 8 に入りやすい組み合わせが明らかになった。

(2)世界ランキング推移の分析から、今後の本大会予選プールの組み合わせが予測でき、日本の仮想敵国をターゲティングすることができた。

(3)諸外国と日本代表の過去のマッチメイク分析から、今後のマッチメイクに必要なグローバルラグビーカレンダーが明確になった。

5. 考察

研究結果をもとに、2019 年 W 杯日本開催で、日本代表がベスト 8 に入るためのマッチメイクについて考察を行った。

第一として、「格下のアジア諸国と戦う予選の費用、日程」を「ベスト 8 を目指す強化のための費用、日程」として活用するために、予選免除される優先出場権を必ず獲得することが必要であるという考察を行った。

第二として、現在ランキング 13 位の日本代表は、実力の差から強豪国とほとんど試合を組んでももらえないのが実情である。従って、まずは世界ランキングを上げるために、ランキングが拮抗している国々とアウェーで戦ってアウェーポイントを取得することが必要であるという考察を行った。

第三として、研究結果を総合することにより、具体的に想定した日本の仮想敵国に対するマッチメイクを強化する考察を行った。その際、代表チームだけでなく、2019 年時点で代表として活躍が期待されるジュニア世代の強化も同時に行う必要を説いた。従ってジュニア世代を主力とするチームにおいてもマッチメイクを行い、更なる強化

を図ることが重要であることを考察した。他にも開催国メリットを活かして、強豪同士の対戦カードを第 3 国の日本でマッチメイクすることにより、強化、普及、資金獲得の好循環を実現する施策も、検討の余地があると考えた。

これらの考察により、2019 年ラグビー W 杯で日本代表がベスト 8 に入るためのマッチメイクとは何かを具体的に提言した。このマッチメイクを通して、自国開催において、日本代表チームが目標通りの成績を収めることが、その後の日本ラグビーの更なる発展の一助になるのではないかと筆者は考えた。

6. 今後の課題

本研究の今後の課題は、次の通りである。

(1)2019 年までの今後 8 年間で、W 杯における予選方法、抽選方法、大会ルールが変更する可能性は否定できない。よって、今後も継続的にそれらに関する分析を行う必要がある。

(2)世界ランキングについては、今後 8 年間で上位チームに急激な変化が起こる可能性は低いと思われるが、その変化の状況を注視する必要がある。